

山形市退院支援フロー(地域版) H30年度 アンケート調査集計結果レポート

山形市福祉推進部長寿支援課・山形市医師会 在宅医療・介護連携室ポピー



本市では、病院と地域の専門職との連携の課題を協議し、医療と介護の連携を促進するため、「山形市退院支援フロー(地域版)」(以下、フロー)をH29年9月から運用しています。

このたび、フローの活用状況や病院とケアマネジャー等の連携状況を把握し、今後の取り組み等へつなげていきたいと考え、H30年8月～9月にかけて関係者へアンケート調査を行いました。

調査対象および回答状況

・居宅介護支援事業所等の介護支援計画(ケアプラン)を作成する職員全員

(市内の居宅介護支援事業所、小規模多機能居宅介護事業所、看護小規模多機能居宅介護事業所、地域包括支援センター)

【対象事業所数：131 対象者数：324】⇒ 回答事業所数：97(74%) 回答者数：233人(71.9%)

・市内病院(一部精神科病院除く)の医療福祉相談室等所属で入退院支援業務を行う職員全員

【対象病院数：12 対象者数：73】⇒ 回答病院数：11(91.7%) 回答者数：50人(68.5%)

— アンケート調査にご協力いただきありがとうございました —

調査結果について

居宅介護支援事業所等の調査結果

フローの活用により、病院との連携において情報提供がしやすくなったなどの良い変化を多くの方が感じていると結果が得られました。入院時情報提供と退院時情報収集の割合が8割以上、退院後の状況報告が7割近くあるという状況でした。入院時の情報提供においては、ほとんどが7日以内の早期に情報を提供されていました。

全体

居宅等側、病院側ともに連携における課題を8割以上感じている状況であり、課題に応じて双方が工夫できることや協力し合えることなどを考えていく必要があります。

情報提供書等の様式については見やすさなど改良を求める意見が多く、見直しが必要です。

病院の調査結果

多くの方にフローの認識がされ、ケアマネジャーの動きや連携のポイントなど場面ごとに確認できるなどの回答が多くありました。また、以前よりも早期に入院時の情報提供が得られるようになった、ケアマネジャーからの連絡や情報提供が増えたなど良い変化を多くの方が感じていると結果が得られました。

調査結果概要

居宅介護支援事業所等の回答

> 入院時の連携状況

居宅等



H30年7月中の
入退院状況

入院時情報提供率
84.4%

・情報提供は、持参(持参&面談を含む)が51.8%。
FAXが20.6%、電話が14.2%。

・情報提供のうち早期(7日以内)の割合は95%。

> 退院時・退院後の連携状況

居宅等

H30年7月中の入退院状況

退院時情報収集率
86.7%

※病院のカンファレンス参加含む

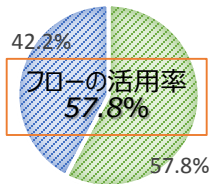
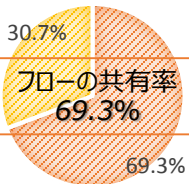
退院後状況報告率
68.8%



・状況報告はケアプラン(ケアプラン&その他文書を含む)が50%。口頭が45.5%。

> フローについて

居宅等



自身の振り返り、連携ツールの確認、支援の抜け確認に多く活用されている。

> 【複数回答】どのように活用していますか？(上位3つ)

回答数÷全回答者数

連携ツールを各場面ごとに確認している。	103	44.2%
自身の入退院支援時の行動プロセスや視点の確認、振り返りなど。	100	42.9%
支援に抜けがないか確認している。	55	23.6%

> 【複数回答】活用していない理由(上位3つ)

回答数÷全回答者数

その他	35	15.0%
入退院支援のプロセスは理解しているため、フローがなくても行動できる。	33	14.2%
医療機関側との共有が十分でなく、使用できない。	29	12.4%

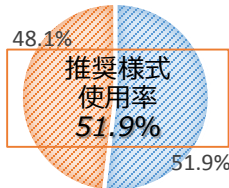
その他の内容

- ・十分理解していない ・支援に困ったことがない
- ・業務多忙 ・入退院は家族へ任せている など

> 推奨様式について

居宅等

(入院時情報提供書、退院時情報収集シート)



様式を使用している方が多くが効果を感じている。

約3割ほどが独自様式、厚労省様式を使用している。

> 【複数回答】使用して感じたこと(上位4つ)

回答数÷全回答者数

使用することで利用者の情報が整理しやすくなった。	54	23.2%
不足している情報等に気付けるようになった。	47	20.2%
入院時、必要な情報を十分に伝えられる。	47	20.2%
退院時、必要な情報を十分に収集できる。	46	19.7%

改良を求める意見では、自由記述欄が足りない小さい、文字が小さい、選択式では伝えづらいなど。

不足している項目としては、入院日、これまでの経過など。

> 【複数回答】使用していない理由(上位3つ)

回答数÷全回答者数

その他	45	19.3%
独自の様式を使用しているため。	43	18.5%
厚生労働省の推奨様式を使用しているため。	26	11.2%

その他の内容

- ・電話でのやりとりで済ませている ・家族に任せている
- ・退院時は看護サマリーで事足りる など

> 病院との連携

居宅等

良い変化を感じている割合 67.8%

病院とのやりとりをする機会は増え、情報のやりとりもしやすく、退院後の在宅生活に必要な情報が得られやすくなったとの回答が多い。

> 【複数回答】病院との連携において感じていること(上位6つ)

回答数÷全回答者数

病院へ情報提供しやすくなった。	91	39.1%
退院時に在宅生活で必要な情報を得やすくなった。	66	28.3%
病院からの連絡が増えた。	59	25.3%
特に変化を感じていない。	57	24.5%
病院へ情報提供する機会が増えた。	51	21.9%
日常的に連絡等が取りやすくなった。	48	20.6%

その他の内容

- ・病院側が連携に積極的になった
- ・連携しにくかった病院との連携がスムーズになった など

病院との連携に課題を感じている割合 86.7%

> 【複数回答】課題だと感じていること(上位5つ)

回答数÷全回答者数

週末の入院の場合、3日以内の情報提供は困難。	106	45.5%
退院直前に支援を求められることが多い。	102	43.8%
病院側が在宅生活のイメージ等を十分に持っていない。	84	36.1%
病院内で情報の共有がうまく行っていないと感じる。	76	32.6%
支援が必要だが、連絡なく退院するケースがある。	76	32.6%

その他の内容

- ・病院のスタッフ(病棟看護師含む)の理解と対応の差を感じる
- ・介護保険サービスへの理解不足を感じる
- ・介護保険申請の際は病院が意向を確認し必要であれば地域包括支援センターにつないでほしい
- ・身寄りのない方で業務外(物品補充や搬入)を求められることがある
- ・利用者と家族より入院した際の病院内の相談窓口がわからないという声を聞く
- ・勤務医への相談がしにくい
- ・退院後にどの程度情報提供すべきかわからない など

> 病院との連携における工夫

居宅等

> 【複数回答】病院との連携において工夫していること

回答数÷全回答者数

できるだけ早期に電話連絡し、追って書類で情報提供している。	83	35.6%
「もしも」の備えとして将来のことを利用者・家族と話し合っている。	64	27.5%
情報を伝える際は利用者の家族関係を詳細にしている。	61	26.2%
日頃から入院時情報提供書を作成している。	45	19.3%
お薬手帳に名刺を挟んでもらうよう利用者をお願いしている。	19	8.2%

その他の内容

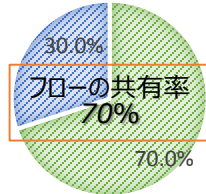
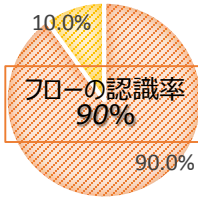
- ・ケアマネジャーから病院へのカンファレンスの開催依頼
- ・退院後のかかりつけ医受診に付き添いまたは手紙で情報提供している
- ・入院になった際は利用者・家族より病院とCMの双方に連絡してもらう約束をしている
- ・退院後にリハビリや自宅での様子を写真で伝えることもある など

調査結果概要

病院の回答

フローについて

病院



ケアマネジャーの動きや連携のポイントなど場面ごとの確認できたとの回答が多かった。

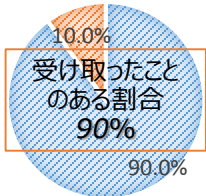
【複数回答】フローについて(上位3つ)

回答数÷全回答者数

ケアマネジャーの動きがわかりやすく示されている。	28	56.0%
ケアマネジャーと連携するポイントの確認ができた。	21	42.0%
場面ごとの課題を確認することができた。	10	20.0%

入院時情報提供書について

病院



必要な情報を得ることができる、情報が整理しやすいと半数以上の方が回答。

問題点や課題を感じている割合 46%

【複数回答】入院時情報提供書について教えてください。(上位6つ)

回答数÷全回答者数

必要な情報を得ることができる。	36	72.0%
情報が整理しやすい。	26	52.0%
情報提供書様式がバラバラで困るときがある。	8	16.0%
必要な情報が記載されていない時がある。	6	12.0%
必要な項目が不足している。	5	10.0%
その他	12	24.0%

その他の問題点、課題

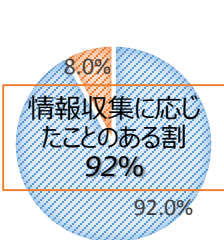
- ・FAXでは文字が潰れたり黒くて読めない時がある
- ・フェースシートや計画書など多くの情報が送られてくると情報収集の効率が悪い
- ・ケアプランがないとサービス利用状況がわからない など

その他の不足している項目

- ・入院に伴う課題(入院中必要な支援や退院時に予想される課題等)
- ・利用しているサービス事業所の記載
- ・家族との関係性の記載
- ・既往歴には年齢と簡単な治療歴(手術、内服など)
- ・患者の精神面(認知面)での変化を知るため、生活歴や自宅・施設での様子
- ・項目のみにとらわれず、ケースに応じた情報提供が必要など

退院前・退院直後の情報収集について

病院



スムーズにやりとりできている、情報収集に応じることで退院後のイメージを共有できると回答した割合は4~5割。

退院後に必要になる情報が整理されているため情報を伝えやすいと回答した割合は12%と少ない。

問題点、課題を感じている割合 40%

【複数回答】ケアマネジャーからの情報収集について教えてください。(上位6つ)

回答数÷全回答者数

情報収集に応じることで退院後のイメージを共有できる。	25	50.0%
スムーズにやりとりできている。	20	40.0%
同じことを何度も聞かれることがある。	11	22.0%
情報を伝えるのに時間が掛かる。	5	10.0%
伝えた情報が正しく伝わっていない場合がある。	5	10.0%
その他	8	16.0%

その他の問題点、課題

- ・“情報収集の重複” 退院前カンファレンスの他に看護サマリーを依頼される
- ・看護サマリーを求められることが多い
- ・看護サマリーを病棟看護師に依頼するなど院内調整に少々負担がある
- ・家族の理解度も確認してほしい
- ・事前に必要な情報や協議内容のレジュメなどがあるとスムーズ
- ・ケアマネジャーからの聞き取り内容と対応がバラバラであり、統一が必要と感じる など

＞ ケアマネジャーとの連携

病院

良い変化を感じている割合 68%

ケアマネジャーとのやりとりをする機会は増え、情報のやりとりもしやすくなったとの回答が多い。

＞【複数回答】ケアマネジャーとの連携において感じていること(上位6つ)

回答数÷
全回答者数

早期に入院時の情報が得られるようになった。	25	50.0%
ケアマネジャーからの連絡、情報提供が増えた。	21	42.0%
特に変化を感じていない。	12	24.0%
日常的に連絡等が取りやすくなった。	10	20.0%
ケアマネジャーから情報収集に応じる機会が増えた。	8	16.0%
入院時に患者、家族から担当ケアマネジャーの氏名等の情報が得やすくなった。	7	14.0%

ケアマネジャーとの連携に課題を感じている割合 86%

＞【複数回答】課題だと感じていること(上位5つ)

回答数÷
全回答者数

患者、家族が担当ケアマネジャーを覚えていないことがある。	30	60.0%
退院後の状況報告はまだまだ少ない。	22	44.0%
日頃から入院等を見越した意思決定支援が必要。	22	44.0%
病院側が在宅生活のイメージを持っていないと感じる。	17	34.0%
病院側が在宅医療・介護についての知識が足りないと感じる。	15	30.0%

その他の内容

- ・様式の活用がバラバラな状況
- ・患者が入院したことがケアマネジャーに伝わるシステムが必要
- ・個人情報についてどこまで伝えていいか迷う
- ・ケアマネジャーからの情報を病院側が活かしてきれていないことがある

＞ 調査結果概要

共通項目 回答

＞ 入退院支援における学びたいこと

【複数回答】

項目	居宅等		病院	
	件数	割合	件数	割合
人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて	111	47.6%	22	44.0%
医療リスクの変化に伴う、生活への影響予測に関すること	99	42.5%	12	24.0%
各種福祉制度、インフォーマル資源の活用に関すること	92	39.5%	17	34.0%
病院機能（急性期、回復期、慢性期など）に関すること	88	37.8%	居宅等のみ	
意思決定支援に関すること	66	28.3%	23	46.0%
権利擁護等の支援に関すること	60	25.8%	21	42.0%
ポピーネットやまがた（医療・介護連携SNS）に関すること	34	14.6%	3	6.0%
介護保険サービスに関すること	病院のみ		9	18.0%

その他の内容

- ・医療・介護連携におけるケアマネジャーの役割について
- ・人工呼吸器装着などの医療依存の高い方や精神疾患の方の退院支援について
- ・病院の退院支援部署との情報交換、独居の方の緊急対応について
- ・入退院支援ケースの事例検討

など

＞ まとめ

本調査では、フローの活用により入退院支援における連携や理解が着実に進んでいることが確認できました。あわせて、様々な課題も把握でき、今後の取り組みにつながるものを多く得られた結果となりました。

今後、さらなる連携促進のため、様式の見直し、フローの活用や病院との連携における工

夫などの勉強会等を企画していきます。また、村山地域における「入退院調整ルール」作成に向けた動きとも連携し、この取り組みを拡げていければと考えています。

ぜひ、本調査結果を見て、日々の実践を振り返っていただくとともに、今後の関係機関との連携に役立ててください。

